

山梨県作業療法士会ニュース



やまなし

第98号 2018年7月25日(年3回発行)

1p 『新年度の挨拶』
2p 『平成30年度役員挨拶』
4p 施設紹介『医療法人 甲療会 赤坂台病院』
5p 新年度を迎え『私たちの振り返りと意気込み』
6p 理事会便り 7p 協会事業推進委員会の紹介・各種申請書のおしらせ 8p 編集後記

新年度の挨拶

一般社団法人山梨県作業療法士会
会長 山本 伸一



平成30年度は、診療報酬・介護報酬・福祉報酬のトリプル改定でした。山梨県におきましては、回復期リハビリテーション病棟に従事する作業療法士が非常に多いこととして知られております。しかしながら、介護報酬や障害福祉においても連携を持たなくてはならないという危機感を生じており、就学や就労に対する作業療法への期待も大きくなっています。すべての制度とつながった「本物のリハビリテーション・作業療法」を展開できる山梨県を目指さなくてはなりません。今年の改定では、画期的な内容であったと思います。回復期リハビリテーション病棟入院料の評価体系の見直し(3段階から6段階・実績指数等)、特定集中治療室における多職種による早期離床リハビリテーションの取組に係る評価を新設等、各ステージでの作業療法士の活躍が期待されます。一方、関係機関の連携強化に向けた退院時共同指導料やリハビリテーション実施計画書の見直し等は、医療-介護連携の強化であり、さらにはリハビリテーション総合実施計画書(要望項目)では「日本作業療法士協会の作成する生活行為向上アセスメント」がはっきりと明記されました。対象者の生活ベースに則った広い視野での作業療法が求められていることでしょう。

今回の制度改定において、脚光を浴びていないかもしれませんが、「医療・介護・福祉事業者間での切れ目のない連携を推進する観点から、入退院支援や退院時の指導等における要件に障害福祉サービスの相談支援専門員との連携を追加する。」が盛り込まれました。つまり、看護師、社会福祉士等が介護支援専門員または相談支援専門員と共同するという事。医療介護サービス・障害福祉サービスについて制度をまたぐ地域共生型になり、事業所としても各制度が同場所にて展開できる第一歩になりました。

介護予防から急性期・回復期・生活期・終末期のすべてのステージで、そして診療報酬・介護報酬・障害福祉サービスの全てを、病院・施設・事業所・企業から起業まで。対象者を選ばない山梨県を創りましょう。私たちの手で。そう願っております。今年度も宜しく願いいたします。

平成30年度 役員紹介

副会長 広田 真由美

前任期に引き続き、副会長に就任させていただきます。今回の改選から、副会長が二名から三名になり、OTの職域の拡大に伴う事業の増加に対して、より一層力を注いで行ける体制となりました。今後は、山梨県の医療・保健・福祉・教育など様々な分野で我々OTの専門性を発揮できるよう、関連団体との調整を図ってまいりたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



副会長 古屋 豊美

前期に引き続き、副会長の職を承りました。これからの作業療法は、保健・医療・介護・福祉領域の業務・事業に、IT・近代技術等をも必要とする時代です。一人一人の個性を多様に生かせる可能性が多岐に渡るでしょう。会員皆様の長所・特技を生かしながら、社会から必要とされる作業療法士会になりたいと考えます。



副会長 三瀬 和彦

甲府城南病院の三瀬と申します。この度、副会長という大役を頂きました。これまで事務局として長らく活動してきました。この経験を生かし、山梨県の作業療法(士)の発展・活躍と県民の皆様の医療・福祉・保健等において、貢献できるように努めていきたいと思ひます。皆様と一緒に県士会を盛り上げていきたいと思ひます。これからどうぞ、よろしくお願いいたしします。



事務局長 磯野 弘司

この度、12年間続いた甲府城南病院から、春日居サイバーナイフ・リハビリ病院が新たに事務局を引き継ぎ、担当させていただくこととなりました。総会で提案させていただきましたメール配信システム等、会員の皆様にとって県士会がより身近な存在になれるようにシステム化を進めてまいりたいと思ひております。不慣れではありますが今後ともよろしくお願いいたしします。



学術局生涯教育部担当理事 有泉 宏紀

木下整形外科クリニックに勤務している有泉宏紀です。生涯教育部を担当しています。生涯教育部は基礎研修会を企画開催し会員の皆様が認定作業療法士、専門作業療法士を目指し楽しんで研修に参加できるように頑張っています。研修会で顔を合わせることがありますので、聞きたい事や困った事があれば気軽に声を掛けて下さい。



学術局企画研修部担当理事 佐尾 健太郎

学術局企画研修部を担当いたします。今年度は計4回の研修会を企画しており、淵雅子氏、松原麻子氏、寺岡睦氏、古屋まゆみ氏を講師にお招きする予定です。他の部局・委員会による研修会とテーマや講師が重複することなく、それでいて会員の皆さまに興味を持ってご参加いただけるよう、部員一丸となって企画・運営に努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。



福祉用具委員会・特別支援教育OT委員会担当理事 関谷 宏美

常設委員会福祉用具委員会、特別支援教育委員会の担当理事、そして第11回山梨県作業療法学会大会長を務めます。地域包括ケアシステムが形づくられてきている地域の中で、医療保険・介護保険を飛び出して行動するパラダイムシフトが求められていることを実感しています。職場の枠も飛び出して山梨を元気にする活動に取り組んでいきます。



制度対策局担当理事 長坂 真由美

今期も引き続き制度対策局を担当させていただきます。今年度は医療・介護・障害福祉のトリプル改定となりました。その疑義解釈等も含め今後は改定の検証結果も明らかになり、次期改定に向けた議論も始まります。これからも、当局では県士会の皆様にとって有益な制度関連情報を収集し、県士会ホームページを通じて情報を提供してまいります。よろしくお願い致します。



広報局担当理事 中島 雅人

前任期に引き続き、広報局を担当させていただきます。広報局は、企画編集部・HP管理部に分かれています。集部では年3回の広報誌の発行、HP管理部では県士会事業・研修会等の案内を掲載しております。今後も、会員の皆様へ有意義な情報を発信できるよう努めてまいります。どうぞ宜しくお願い致します。



制度対策局・協会事業推進委員会担当理事 野上 雅史

協会事業推進委員会担当理事の野上雅史です。当委員会は昨年度より発足致しました。日本作業療法士協会が推進する事業をいち早く県士会員の皆様へ情報提供していくことが活動内容となります。今年度は、昨年度に引き続きまして自動車運転・地域包括ケアシステムを活動の軸としながら、新規事業も計画中です。県士会員の皆様に有益な情報提供ができるよう邁進していきます。



社会局担当理事 濱田 一登志

今回、社会局の担当理事をさせていただきます、山梨赤十字病院の濱田一登志です。渉外部では、県主催の介護人材育成研修事業への講師派遣等、また、事業部では“いきいき山梨ねんりんピック”や“障害者文化展”本年から新事業として“OTの日”に啓蒙活動等を企画しております。今後も介護とリハビリの連携を深めて行くお手伝いが出来たらと思っております。よろしく願い致します。



倫理委員会・認知症対策推進委員会担当理事 松田 智子

倫理委員会では日々悩まされる臨床の出来事について、共に考えられるような場を作りたいと考えております。認知症対策委員会では、『認知症があってもその人らしく暮らせる地域づくり』をテーマにし、会員皆様のお気持ちを大切にしながら、地域で活躍できる人材育成に取り組んでいきたいと思っております。



学術局学術大会運営部・地域リハビリテーション委員会担当理事 宮尾 亮

学術大会運営部では山梨県の作業療法（士）の活躍・強みと課題・悩みなどを共有し、学びの場や繋がりを作れる学術大会を開催できるよう運営・企画をしていきます。新しく担当します地域リハビリテーション委員会では市民フォーラムの開催など地域における作業療法の活動・啓発を推進し、会員への情報提供も行っていきます。積極的な参加と協力をお願い致します。



生活行為向上マネジメント推進委員会担当理事 米山 敦

今期も生活行為向上マネジメント推進委員会を担当することになりました。当委員会が発足して5年目となり、県士会員の半数以上が研修を履修され、多くの実践が県内で展開されるまでになりました。「活動」と「参加」の支援において、この一つのツールは重要であります。更なる普及のために情報発信・研修会を企画していきたいと思っております。よろしく願い致します。



監事 佐田 剛

監事の役割を果たしているか？自問自答の日々ですが多くの方々の頑張りに励まされています。理事会・OT士会員のよき助言者となれるように、「つねに想像・創造」の精神でOT実践者として頑張っていきたいと思っております。公益活動の推進。地域の方々の「したい」の実現を目指し、一緒に考え、一緒に悩み、達成を一緒に喜びましょう。どうぞよろしくお願い致します。



監事 原 京子

今年度も監事をさせていただきます。監事の役割を十分に果たしているとは言い難く、心苦しいばかりです。しかし、年度の終わりに、各部会からの会計報告を受けさせて頂く中で、皆さんの一年間の活躍やご苦労を知ることができ、「得させてもらっているな」と思っています。毎回今年度こそは 私もう少し頑張ろうと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



施設紹介

医療法人 甲療会 赤坂台病院

機能訓練室 安部 芳美



当院は甲斐市ドラゴンパークの側、富士山を一望できる高台に位置しています。昭和58年開設当初は50床の病院でしたが、平成5年には医療法人甲療会と法人の名称を変更し、平成9年には療養病棟増設にて開設当初の倍の100床（一般病棟48床、療養病棟52床）となりました。

その後も平成10年に訪問看護ステーション、平成12年にヘルパーステーション、平成20年にデイサービス、サービス付き高齢者住宅を開設するなど、社会背景に応じ地域に根差

した医療・介護を提供している病院です。また毎年9月には病院の駐車場にて「赤坂台秋祭り」を開催しており、健康相談や血圧・血糖値・骨密度測定を行い地域住民とふれあうことで、より病院を身近に感じただけの取り組みも行っていきます。

平成28年に私とPT1人の2人体制で再稼働したリハビリテーション科は、現在PT6人・OT2人と増え8名体制で日々診療に努めています。『退院が難しい療養病院』『寝たきりの患者様が多い』という印象がある当院ですが、今年新たに訪問リハビリを開設。今までは難しかった在宅・施設へ退院という医療から介護への切れ目のないサービスを提供することが可能になり、より地域に密着した病院になったと感じています。

山梨県と言えば健康寿命が長く、高齢者となってからも仕事を続けている方が多いといわれています。当院もリハビリテーション科を始動してからは徐々に入院患者様の層も変化してきています。より在宅の環境に合わせた、退院を踏まえたリハビリが必要となっているということを理解し、切れ目のない支援を提供していければと思います。そして、「当院は、病める人々の心身を癒し、健康の回復と穏やかな入院生活を過ごせるように努めます。職員は、優しさと思いやりをもって信頼される医療を目指します」の基本理念のもと患者様・ご家族様に信頼していただける病院を目指し日々職務に励んでいきたいと思っています。



新年度を迎え

私たちの振り返りと意気込み

「私の振り返りと意気込み」

竜王リハビリテーション病院 作業療法科 塩澤弘顕

「1年目はとりあえず何でもやってみな」という先輩の言葉を胸に、各種勉強会への参加や認知症カフェの運営に関わらせていただきました。この一年はがむしゃらに走ってきた様に感じます。しかし診療業務では、勉強会で学んだように上手く行かず、葛藤を続ける毎日でした。そんな中「自分の言動をより意識化することが大事」とであるとアドバイスをいただき、治療において大切な要素だと気が付き、自身の課題として取り組まなければならないと強く感じました。そうすることで、患者様の変化に気が付く事が増え、今まで上手く治療につなげることが出来なかった部分がより明確となるのではないかと思います。意識しながら成長に繋げていきたいです。

「私の振り返りと意気込み」

甲州リハビリテーション病院 土橋 佳奈

国家試験の合格発表を経て、晴れて作業療法士として働き始め早一年。先輩ができ、その姿に入職当時の自分を重ねては、先輩方に厚くご指導いただいた日々を思い出します。先輩方の背中から学ぶ作業療法の魅力や楽しさは、私にとっての理想の作業療法士像を作り上げる貴重な経験となっています。また、臨床の中で患者さんから学ぶことはとても多いと実感しています。一人の人生を任せられる責任の重さを痛感しながらも、笑顔で退院していく姿を見送るたび、この仕事を誇りに思います。一人でも多くの患者さんをその人らしい生活へと送り出していきたい。まだまだ発展途上中の身として日々学ぶ姿勢を忘れず、臨床に取り組んでいきたいと思っています。

「一年目を振り返って」

株式会社 山梨福祉総研 三科 真澄

株式会社山梨福祉総研に入職してから一年が経ち、一日型のデイサービスでOTとして、他職種の方々と多様な価値観の中で働いています。目指すべきものは「自立」か「自律」か、思いが上手く汲み取れず差が生じることもありました。集団の中で利用者様や他職種との関わり方や、伝えることの難しさを感じる事が多かったです。

今年は、その人の今までの人生を大切に、今とこれからの生活に寄り添えるよう、努力をしていきたいと思っています。一人ひとりに合わせた「～したい」などに挑み・工夫をして、「その人らしい」活動を支援していきたいです。難しそうなことでも一緒に挑戦したい！と思って頂けるOTになれるよう、私自身も挑戦したいと思っています。

「私の振り返りと意気込み」

甲府城南病院 兵藤 健太郎

作業療法士としての最初の一年は、目まぐるしく過ぎ去ってしまいました。業務を覚えることや環境に慣れることに精一杯で、患者様とよくなって頂きたいという気持ちを行動として表せず、悔しい思いが残る年でした。

前年度に比べ業務や環境には慣れてきました。しかし、治療技術は勿論のこと、患者様との関わり方についても、課題が山積しております。諸先輩方より気付かせて頂いた課題を修正し、アドバイスして頂いたことを一つずつ身につけ、より患者様に貢献できる幅を広げる一年にしたいと思います。そして、山梨で知り合った素晴らしい仲間たちとお互い切磋琢磨し、作業療法士として、少しずつ殻を破っていく年にしたいと思います。

「その人らしさを引き出すために…」

医療法人 韮崎東ヶ丘病院 齊藤 隆太

私が韮崎東ヶ丘病院に入職してから早二年が経過し、三年目を迎えました。私は今、主に認知症患者様がいらっしゃる病棟を担当しています。入職当初は分からないことが多かったのですが、徐々に患者様ともコミュニケーションを取ることができ、関わりの中で、取り組めることも増えてきたように感じます。しかし、中には疎通が難しく、対応が分からない患者様もいて、なかなかその人らしさを引き出すことが出来ない場面もあります。引き出すという部分は私が前々から苦手としている所でもあるので、患者様との関わりや、知識や経験を更に身に付けて、少しずつでも得意にしていけるよう努力していき、患者様と共に寄り添って行けるように頑張りたいと思っています。

理事会だより

一般社団法人山梨県作業療法士会 2017年度 第5回 理事会議事録

日時：平成29年9月25日(月) 会場：甲府城南病院 作業療法室
出席者：山本、広田、古屋、三瀬、長坂、野上、中島、濱田、松田、米山、磯野、佐尾、宮尾：13名

1. 事務局(三瀬)

- 1)平成29年9月9日(土)・10日(日)日本作業療法士協会主催地域ケア会議・介護予防日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会に三瀬事務局長・磯野理事が出席

<管理部>

- 1)会員数567名(平成29年9月25日現在) 新規入会1名

<福利厚生部>

- 1)記念品として絆奮闘と絆セットを1,000個作製し、いきいき山梨ねんりんピックにて配布していく

2. 社会局(濱田)

<事業部>

- 1)平成29年9月17日(日)第5回甲信越在宅医療推進フォーラムOTブースに出席し、8名の見学があった

3. 学術局(佐尾、宮尾)

<学術大会運営部>

- 1)第11回山梨県作業療法学術大会の副大会長として磯野理事、黒崎真樹(健康科学大学)をお願いしたい
→承認

4. 特設委員会(磯野、米山、松田)

<地域リハビリテーション委員会>

- 1)平成29年9月17日(日)甲府駅前にて作業療法の日イベントを開催し、14件の相談があった。15名のスタッフが参加し、1,000個のティッシュを配布

<認知症対策推進委員会>

- 1)平成29年9月10日(日)中央市田富区にて認知症広場 in たとみを開催し、山梨日日新聞で記事が掲載される予定

一般社団法人山梨県作業療法士会 2017年度 第6回 理事会議事録

日時：平成29年10月31日(火) 会場：甲府城南病院 作業療法室
出席者：山本、広田、古屋、三瀬、長坂、野上、中島、濱田、松田、米山、磯野、佐尾、宮尾、関谷、有泉：15名

1. 副会長(広田、古屋)

- 1)認知症カフェを援助する認知症対策推進委員の人手が不足している為、活動を援助する必要がある

2. 事務局(三瀬)

- 1)平成29年10月28日(土)・29日(日)日本作業療法士協会会員管理システム講習会に鈴木聡史(春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)・梶山孝政(甲府城南病院)が参加
- 2)山梨県立介護実習普及センターより、介護職場人材育成研修 自立支援の進め方の講師依頼を受託
→ 渉外部が対応
- 3)山梨県より、リハビリテーションのつどいの開催に伴う出展ブース依頼を受託
→ 事業部が対応
- 4)昭和町役場、地域包括支援センターより、家族介護支援事業の講師依頼を受託
→ 認知症対策推進委員会が対応

<管理部>

- 1)会員数567名(平成29年10月31日現在)

3. 広報局(中島)

<ホームページ管理部>

- 1)平成30年2月よりホームページの切り替えを行い、今後は一般市民用と会員向けのホームページを作成する

4. 学術局(佐尾、有泉、宮尾)

<企画研修部>

- 1)第2回企画研修部研修会

テーマ：「園芸療法と5つの癒し～植物・園芸の使い方と認知症への応用～」

日時：平成29年10月20日(金)

会場：ひゅあ総合

講師：豊田 正博(兵庫県立大学大学院 准教授、緑環境マネジメント研究科 主任 景観園芸専門員)

参加者：83名

5. 特設委員会(磯野、米山、松田)

<生活行為向上マネジメント推進委員会>

- 1)テーマ：第1回MTDLP事例検討会

日時：平成29年9月26日(火)

参加者：19名(内発表者4名)

- 2)テーマ：第2回MTDLP事例検討会

日時：平成29年10月5日(木)

参加者：13名(内発表者2名)

- 3)テーマ：第3回MTDLP事例検討会

日時：平成29年10月13日(金)

参加者：22名(内発表者3名)

- 4)テーマ：第4回MTDLP事例検討会

日時：平成29年10月26日(木)

参加者：28名(内発表者4名)

<認知症対策推進委員会>

- 1)第2回認知症ウォーキングスタンプラリー

日時：平成29年10月15日(日)

会場：森林公園 金川の森(どんぐりの森)

参加者：64名

協力者：95名

- 2)認知症アップデート研修

日時：平成29年10月29日(日)

会場：山梨市民会館

講師：古屋副会長、松田理事、認知症対策推進委員

参加者：64名

6. 協会事業等推進委員会(野上)

- 1)117施設にアンケートを実施し、43施設より返答あり

協会事業推進委員会の紹介

協会事業推進委員会担当理事
山梨リハビリテーション病院
野上雅史

協会事業推進委員会は、平成 29 年度より発足致しました。

活動内容は、日本作業療法士協会の推進事業と協業し、県士会員に向けた普及・啓発活動を行うことです。現在は、①地域包括ケアシステム推進委員会、②運転と作業療法委員会を活動の中心としています。

①地域包括ケアシステム推進委員会では、山梨県リハビリテーション専門職団体協議会・県の協働で事業を進めております。今後も山梨県OT士会で支援を致します。

②運転と作業療法委員会では、協会の委員会と協業するとともに、県内の自動車運転支援の構築に向けて活動を開始しております。

今後も、現状の委員会活動を継続するとともに、新たな推進事業の計画・運営を行って参ります。まだまだ始まったばかりの委員会ですが、県士会員の皆様には有益な情報提供が出来るよう、部員一同、熱意を持って取り組んで参ります。

一般社団法人 山梨県作業療法士会会員手続きについて

入会について（会員の構成）

1. 正会員 一般社団法人日本作業療法士協会の正会員である者で、山梨県内に常勤または在住し、当法人の事業に賛同して入会した個人（作業療法士対象）
2. 賛助会員 当法人の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した個人または団体
3. 名誉会員 当法人の事業に顕著な功労のあったもの又は学識経験者

※いずれも理事会での承認が必要となります。特に賛助会員に関しては、賛助内容を明確に提出して頂き、理事会にて検討させていただきます。詳細につきましては、一般社団法人山梨県作業療法士会定款「第二章 会員」をご覧ください。

会員手続きについて

各種申請書（入会申請書／登録変更届／休会・復会届／退会届）を当士会ホームページからダウンロードして頂き、事務局 管理部まで郵送またはFAXにてご連絡ください。特に、変更届については、変更があり次第ご連絡頂きます様お願いいたします。

連絡・送付先

一般社団法人 山梨県作業療法士会 事務局 管理部
〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 作業療法室内
TEL : 0553-26-4126
FAX : 0553-26-4366



編集後記

- ・至らない所もありましたが、お陰様で無事編集を終える事ができました。次号からも暖かく見守っていただけると嬉しく思います。(ふ)
- ・私事ですが、10月には2人目が産まれる予定です！より一層頑張っていきたいと思います。(稲)
- ・今年の夏は沖縄へ！と思っていましたが断念。来年こそは。(精)
- ・今年の夏は家に1人です。改めて自分と奥さんのご両親のありがたみを感じます。いつもお世話になっています。(浅)
- ・今年の夏は1人増える予定です。いつもより暑い夏になる予感。(内)
- ・今年度も会員の皆様に面白い！と思って頂けるような広報誌を作っていきたいと思います。よろしくお願い致します！(い)

発行人：山本 伸一

編集人：中島雅人・飯野 知一・内藤 和也・藤原 浩宣・梶原 由加里・浅川 良太・精進 智規・稲葉 峻太・三森友樹

行先：いらすとや

発行所：一般社団法人 山梨県作業療法士会 広報局 企画編集部

竜王リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション事業所 〒400-0114 山梨県甲斐市万才 287 TEL 055-276-1155

FAX 055-279-1262

印刷所：(株) 島田プロセス 〒409-3867 山梨県中巨摩郡昭和町清水新居 1534 TEL 055-233-8829